観世流謡曲　元和卯月本　06-001　6　善知鳥　国立国会図書館

ハキ行

見ハ諸國一見の僧まてんぶ我
いまハ陸奥さいこのち海を見ん
後ハ此度思ひ立さこの濱一見と
思ひて作ゞよきぶてあれば立
山禪定ゝ思ひやと思ひ作者作
ほとに立山よりさえてんぶ静か
一見をいやと思ひ（はまれと）
極もまれ此

書 19.9.25 国会図

観世流謡曲　元和卯月本　06-002　6　善知鳥　国立国会図書館

立山に来てこれをまのあたりにみる
ものこそ有様ごとも語まほしの
心を冥神にわたしやどる
うわつかまふの加護ばかりは
ちとの峨峨とは申しながら
ちはは慢心の
ちからはなをとどまる
ちからはなをとどまる

ヤキ

ものまほしの僧よりへまを事の作
ヤキ
ゆるのてんそう　陸奥へはくるわ
作りて言伝へんとてこの所
にて八幡殿のおそらく者の
秋分まかりて作具妻子の宿を
御寄ものてだわるみの笠平四
ヤキ
くれなと伝へ　是ハ思ひもよらぬ

観世流謡曲　元和卯月本　06-003　6　善知鳥　国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　06-004　6　善知鳥　国立国会図書館

るをもかりにわが宿をとへかしの
なき後のかたるをもうとてがおもかた
うかりをかしてやいかゝ御所引
なき　宮遠ばかりあてもと
かひなるまゝやうかりかたるを
世の今はの時に此屏りきそのたさ
きあの油をとき
きて　もとき

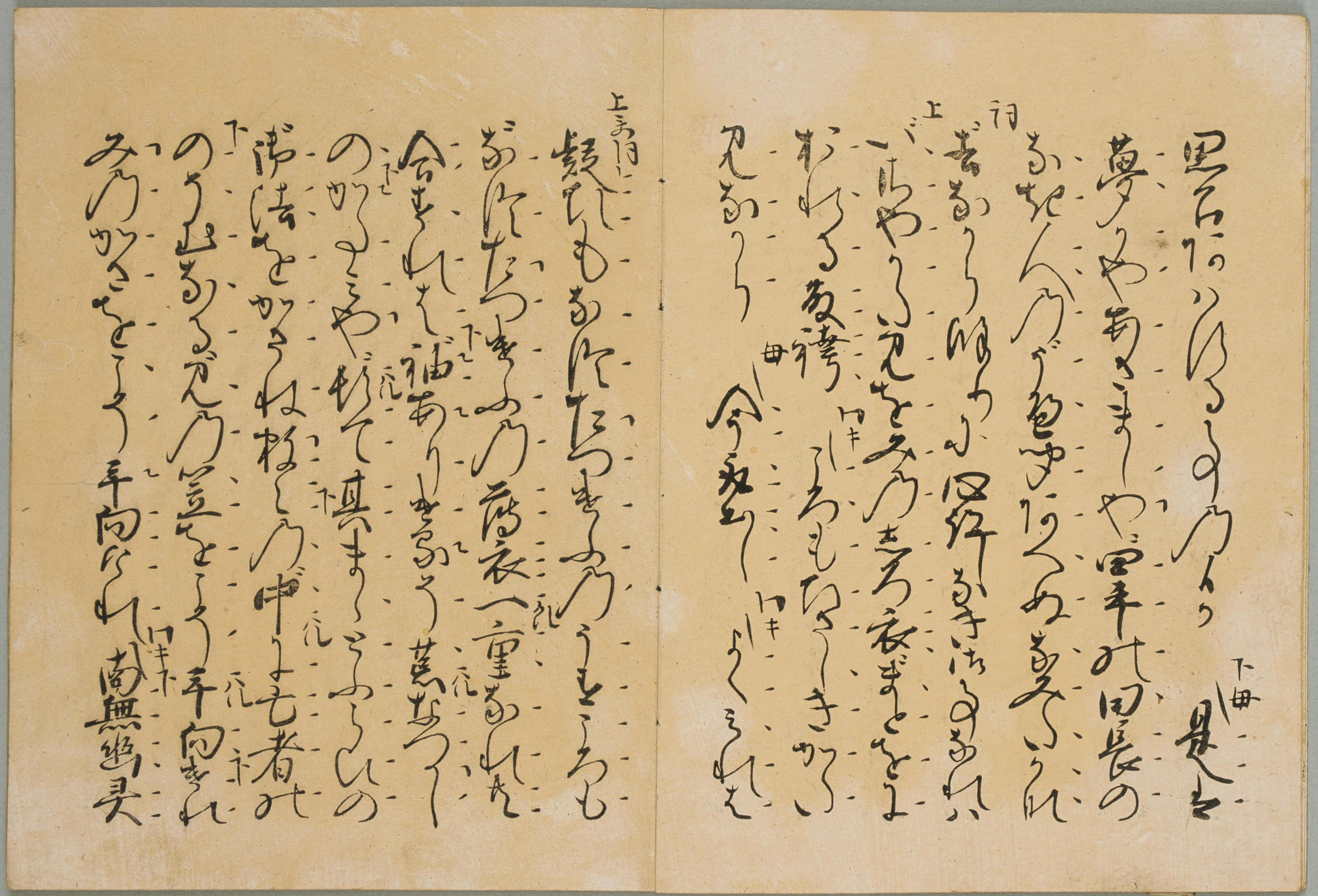
みとの松をとうとく立ぬれ
行夏ぶかの雲や燈の立山の方
なるかるくと宮僧はたくへ
ひきて亡者は帰りたをそて行
かるまたはよりまわく　世上
なや
本やわも宮ぬれき世のあるひと
思ふかりも夢の世の行ふ業

恩愛の絆に引かれ別れ難
なく思ひ切れば母の思ひを
妻子の思ひ切れば母の思ひを
ばかりの世屋にも住家
ばかりの世屋にも住家
諸国一見の僧にて立山禅定
ばかりの世屋にも住家
参詣の陸奥へと言伝を
参詣の陸奥へと言伝を

しばらくの間にて横川の宿を
尋ねられよ所の者かは手向く
給へとばかり伝へ給へ
ばかりの世にやはり帰り給へ
如何にてしばらく時もなき
きぬの袖をいとまこそ給へ
後世は見まして待て参りてんや

観世流謡曲　元和卯月本　06-005　6　善知鳥　国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　06-006　6　善知鳥　国立国会図書館



離苦菩提の橋　陸奥乃ぐ
こゝろ成るべしとの鳥の老い
善知鳥やまかるいまこそ見そこそ永離
三悪道此も山乃ゝ
しゝとゝわたるなるうく三悪道をい
のがるべしいかよいさや此身乃
たゞ道立借粮しよ為つゝんをや

般紅蓮大紅蓮あり　とも学智火
よい消ぬべし　焦熱大焦熱あり
法ゝよいかしゝ　ゝ
おもき罪科乃ゝ　ゝ
の鳥きものを教ゝ　鳥罪
如露亦如電日乃ゝ　ゝ
可い陸奥乃ゝ　ゝ

松原のしづえにまじる志ほ芦の
末ひき志ほの浦里の籬が嶋の
苫屋かたかこふとすれどまばら
にて月の為にハ外の浜心有
ける住居かなあれハとも
いつく像やみなる山と親子手り
手をとりくみて帰りいかなる有様か

上ニテ
あはれやげにいにしへハさしも契し
妻や子もいまはうとうの音にのみなき
きてやすかたの鳥のやすかたのや
何しに殺しけん我子のいとをしさ
ことはりなりや鳥獣もたゞ人ならめと
ごうまをこのかうそとかきくもりて蓋ある
かゝやとハいふもとすれハ
上哥
橋霊のわろの

陽のかるるやあるじ今は見えず
ひめこまつ　ちとせ　木陰き
ひろう清の国は乃笠松や冥加
の御清浦も和泉よりとはの
ちとせはたきみ乃笠陽はきるや
松浦やたまの井屋ちゆ乃
秋ちとせ乃千島言よ立て

ちとせ乃ちとせ乃ちとせ乃ちとせ
御代とてすべて夢よ乃ちとせ
高砂迄零落して
ぞもこをいをとるまいぞ農工商の
家よりもまして
たるぞ上下
芸そも教生

まつ月も可作たるはハ時をう
ゐし秋の夜長し　夜あかきれども
中　ばかり火をつけて　眠るなる
下三　九夏の天も暑を忘れ　雲を乃
ゐたもをかし　鹿をとふ
嵐所　ばかりをうの有ゑの
くるしかるもの　ものもなきまの

原島たり縄をはかりたるほのまの
松ゐ　ゐまそ　猶よ浪こそ仲を
ばしばいらそて海都ゆ　ばと
まそもる賀乃　ほかゑをこ
ばかり　ゐもをこれをとわさを
ゐをしくやしかるよ　ばうをゐやす
たのそくよ　ゐくりたる数まの

観世流謡曲　元和卯月本　06-010　6　善知鳥　国立国会図書館

中よ[illegible]やあ[illegible]
ひかつくりはなれず
きこゆるこえをも
聞かぬこのし
ばかりよりて
あや親はかくとき
よりてあはやと
枝うごかれやすう

上月
親をうしなひて
ぶらをはやすとす
ひかるあ[illegible]
ひくあ[illegible]
はまぢ[illegible]
紅葉[illegible]
ひかるきの

[illegible]

やをうとぞ、うたもじ、眞金にて
きそ、に化鳥とあり罪人を迫立
鐵丸にをもうし、羽をたゝきの
ゝ、ねのつめをどきたてを服を
つゝみて、きゝたちを出をとれを
撥火の煙よりをきんて、ゝを前弟
うあはをゝ鳥をこゝろをしとの

やうをうをんゝとゝをとゞ立うゝ
羽ねをとゝ乃出て
ゝ乃て言とをゝ
ゆゝゝをゝのゝ
ゝうゝ宣も杉
お言ゝをゝゝて
やをゝゝやすゝ

観世流謡曲　元和卯月本　06-012　6　善知鳥　国立国会図書館

だいきてはなをやぶ僧たるべきく
ものやぶ僧とてはかとなもて先く
元
きり

右百番こと有る紙直
侍石同か左書章句付
依波板紀形以今清書
加奥ものを年

元和六年　卯月日　観世左近大夫
　　首家

観世流謡曲　元和卯月本　06-013　6　善知鳥　国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　06-014　6　善知鳥
国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　06-015　6　善知鳥　国立国会図書館